昭和十四年版

館林町勢要覽

特256
333

0032185000

0032185-000

特２５６－３３３

館林町勢要覧

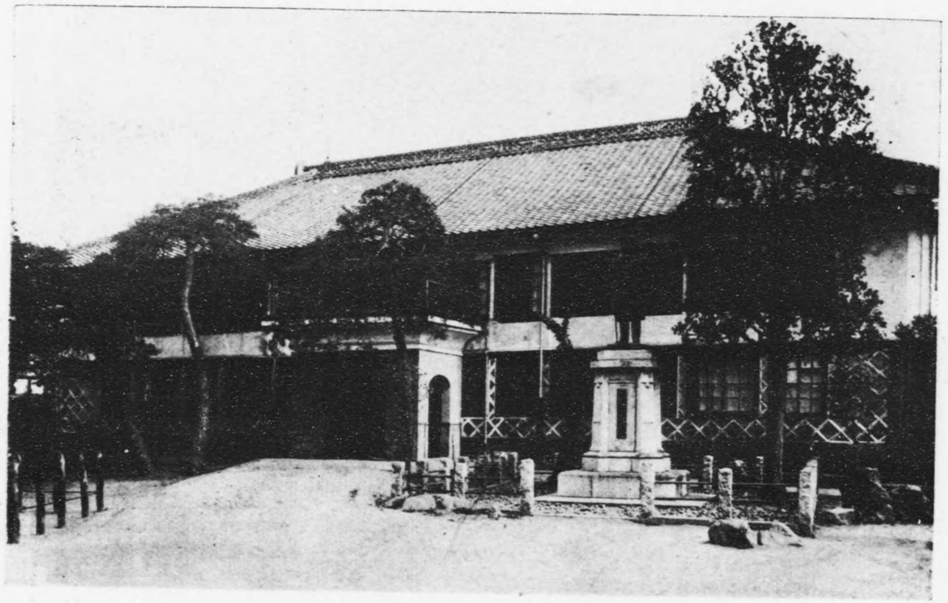
館林町

昭和１４年版

昭和１５

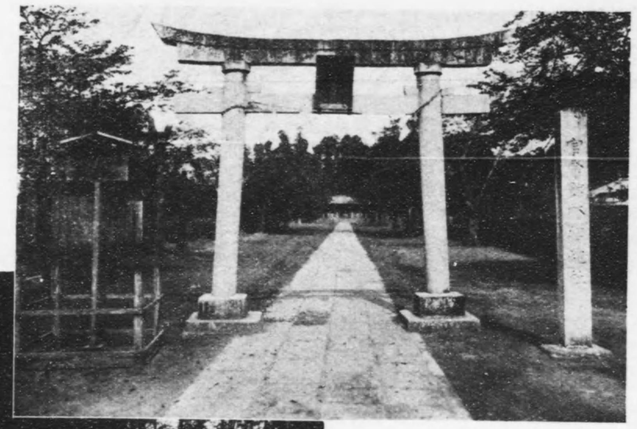
AFB

特 256
333

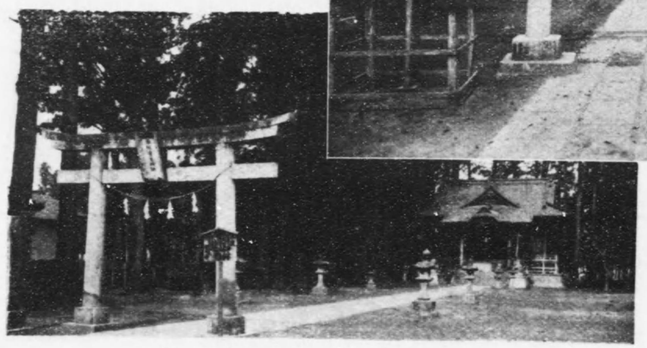


場役町林館

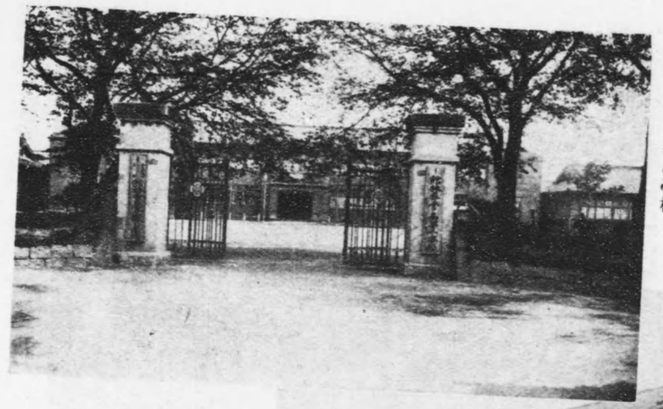
特256
333



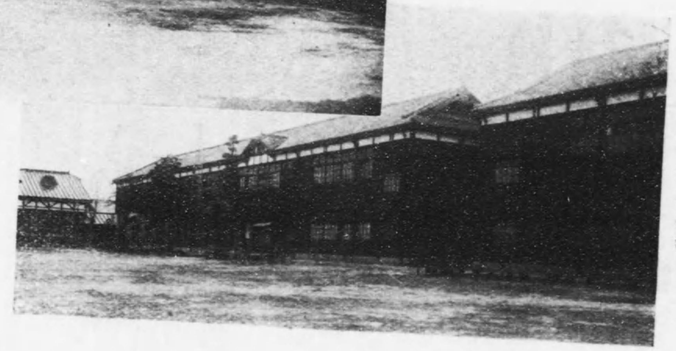
館林招魂社



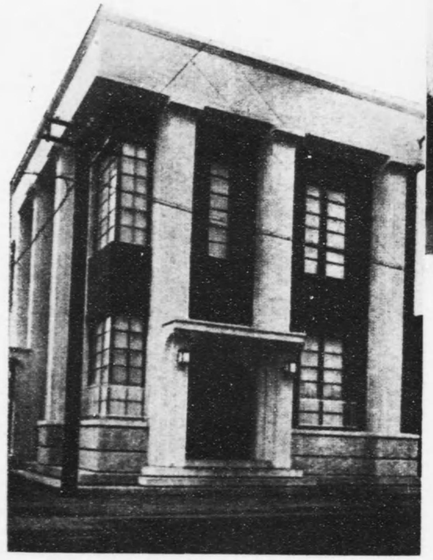
郷社長良神社



館林尋常高等小學校



館林南尋常小學校



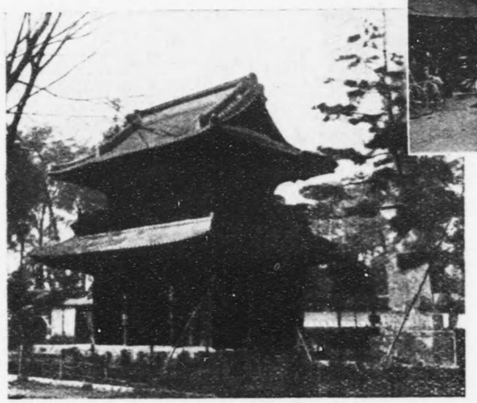
館林信用組合

館林織物工業組合

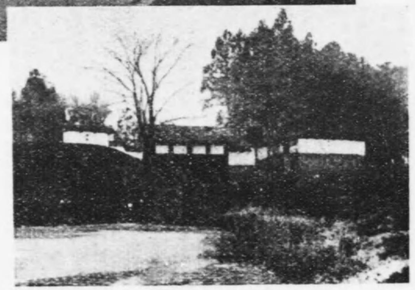
館林機業補導所

尾曳稲荷神社

館林市街の一部



名刹善導寺山門



館林城趾三の丸

邑樂相互病院

縣立鄰蹟ヶ岡公園記念碑

公園風景園内ヨリ城沼ヲ望ム

縣立鄰蹟ヶ岡公園入口

昭和十四年館林町勢要覽

凡例

一、本要覽ハ町勢ノ一班ヲ知ルノ目的ヲ以テ編纂セルモノニシテ管外人事項ト雖必要ト認メタルモノハ之ヲ掲載セリ

一、要覽中豫算ニ屬スルモノハ昭和十四年度其他ハ昭和十三年ノ事實ニ依リ調査登載セリ

昭和十四年一月 館林市

館林町役場分課組織

- 町長
  - 助役
    - 第一課
      - 文書係
      - 庶務係
      - 議事係
      - 社會係
    - 第二課
      - 學務係
      - 社寺兵事係
      - 衛生係
    - 第三課
      - 税務係
      - 土木地籍係
    - 第四課——戸籍係
    - 第五課——會計係
    - 第六課——産業係
  - 收入役

備考　各課ニ課長ヲ置ク第一課長ニハ主事ヲ第五課長ニハ收入役ヲ以テ之ニ充ツ

沿

往古邑樂郡佐貫莊に隷屬す、赤井氏其莊司たり、後には守護職として支配す、世々本郡赤岩、青柳等に居る。

赤井氏四代——天文元年赤井山城守照光、館林に築城して居を移す、照忠、照康を經て照歎に至り其幼主なるに乘じ家臣毛呂因幡守季忠不軌を圖る照景出奔す

長尾氏——元龜元年足利城主長尾但馬守顯長叛臣毛呂を滅し之を管轄す

北條氏——天正十二年顯長北條氏直に攻められ足利に退く氏直館林を其族北條美濃守氏規に與ふ氏直依つて家臣南條因幡守則親なして之を支配せしむ

榊原氏三代——天正十八年小田原落城するに及び北條氏の所領は德川氏の統ふる所となり、館林を榊原式部大輔康政に與ふ、其子康勝に嗣なし、遠州横須賀城主大須賀忠次を迎へて其後を嗣がしむ、其身一代松平氏を稱す、寛永二十年忠次奥州白河に轉す

城番——松平忠次去つて城主を置かざる事約一年半此間小幡城主織田因幡守、太田原城主太田原備前守七日市藩主前田右近太夫等交る〳〵城番たり

松平氏(大給)二代——正保二年松平乘壽濱松より來つて城主となる、寛文元年其子乘久下總佐倉に轉す

德川二代——寛文元年德川綱吉城主となる、延寶八年入りて台位を繼承し五代將軍となる、天和三年其子德松丸歿するに及び廢城となる

代官支配——廢城中代官支配す、其間二十四年

松平(越智)二代——寳永四年松平出羽守清武城主となる、

沿革

享保十三年其子武雅卒し、武元相續の日奥州棚倉に轉す
太田二代及城番――享保十三年太田備中守資晴棚倉より來つて城主となる、同十九年大城城代に轉す夫より元文五年まで六年間、城番を置く、此間壬生城主鳥居丹波守、岩槻城主水井伊賀守、沼田城主黑田大和守、其他來つて城番たり
元文五年、太田資晴の子資俊來つて城主となる、
延享三年遠州掛川に轉ず
松平氏三代――延享三年松平右近將監武元奥州棚倉より來つて城主となる、子武寛、孫齊厚相繼ぎ天保七年石州濱田に移る
井上氏――天保七年井上河内守正春奥州棚倉より來つて城主となる、弘代二年遠州濱松に轉ず
秋元氏二代――弘化二年秋元但馬守羽州山形より來りて城主となる、其子禮朝明治二年封土版籍奉還館林藩知事となる
明治四年七月廢藩、館林縣を置く、僅に四ヶ月にして十一月栃木縣の管轄となる、同九年八月群馬縣管轄に歸し以て今日に至る

名所及

官祭館林招魂社――代官町にあり戊辰殉難者の靈魂をまつる。其後大正十三年に至り邑樂郡内西南及日清日露兵他に於ける戰死者を合祭せり境内櫻樹多し
郷社長瓦神社――代官町にあり境内老樹蓊蔚晝猶暗く人をして自ら敬虔の念を起さしむ、
北に隣接して長瓦公園あり
大正十五年社殿改築す
村社尾曳稲荷神社――城内稲荷郭に鎭座し館林城の守護神たり來參する者年と共に多きを加ふ神域は城沼の西北岸に沿ひ躑躅ヶ岡公園に對し眼界開け眺望絶佳なり
昭和十二年社殿改築す
愛宕神社――木挽町にあり千二百餘年前の勸請なりと傳ふ老杉直々として社頭に聳へ森嚴閑寂の靈場たり境内に文永年間の板碑あり
善導寺――谷越町にあり關東十八檀林の一にして寺内に榊原康政の墳墓と祐天上人大願大智を得たる不動尊あり佛体は行基菩薩の作と傳ふ。堂宇宏壯山内幽邃にして杖を曳く者多し
茂林寺――郊外六郷村大字堀工にある古刹なり紫金銅茶釜を藏す、寺傳を按するに元龜年間千人回向を營みける時、仙僧守鶴何處よりか此茶釜を携へ來り茶堂の用に供せしに其の湯くめども盡くる事なかしと云ふ、寺寶として衆人の觀覽に供す
古來童話として喧傳せられ館林茂林寺の分福茶釜と云へば全國殆ど之を識ざらる者なきに至れり

三ノ丸――は城の一郭に属し城主本第のありし所なり明治七年不幸にして回録の災に罹り輪奐の美は可惜灰燼に歸し永く荒廢に委せしかど後年に至り有志相謀り丘を築き荆棘をむしり松櫻數百株を移し植かへ今や一郷の勝區たり

鄒蹋ヶ岡公園――一に鄒蹋ヶ崎とも云ふ又花山と稱す郭外赤羽村に属し南に桃林を擁し城沼に沿ひ滿園悉く鄒蹋の老木にして株數二千七十餘其の大なるは二丈餘に達し樹幹苔蘚相纏ひ古色蒼然たり明治十九年五月英照、昭憲兩皇太后の行啓を辱うし名聲愈々高く年々歳々遊覽の客を加ふ

役場位置　面積廣袤　大字名　土地　公園　戸口

| | | |

年次	婚姻件數	離婚件數	出生			死亡			産	
			總數	男	女	總數	男	女	總數	男
昭和十三年	三七	一六	四五〇	二七四	二七六	四一〇	二一五	一九五	二〇	一二
昭和十二年	二八三	一九	六七二	三五四	三一七	三九四	二〇六	一八	二四	一五

職業別世帶數	種別	世帶數
農業世帶數		一二六
商工業世帶數		一、三九三
俸給生活者世帶數		六五二
其ノ他世帶數		一、五〇三
計		三、六七四

財		目	徵收額
稅	租稅	國	地稅	八、五二七円
			營業收益稅	一三、五九一
			所得稅	四九、五八六
			資本利子稅	三一五
		計		七四、〇一九
		縣	地租附加稅	一一、〇九八
			特別地稅	二四
			營業稅	三、九五四
			雜種稅	一八、五三五
			營業收益稅附加稅	二〇、三九五
			所得稅附加稅	三三、〇四〇
			家屋稅	二三、二五六
		計		一、〇八三
	都市計劃特別稅	營業收益稅割		八八、三九五
	地租附加稅			五、九七七

町稅		歲入	
特別地稅附加稅	二〇	財産ヨリ生スル收入	八、一三三
營業收益稅附加稅	一五、八五五	使用料及手數料	六、六四二
營業稅附加稅	二、六五七	交付金	四、九七八
雜種稅附加稅	二〇、二七五	國庫下渡金	二〇、四〇七
家屋稅附加稅	六、一〇六	國庫補助金	一、四〇四
特別稅戶數割	五四、九二二	縣補助金	一、二九六
計	一〇五、四一一	縣奬勵金	二五九
		寄附金	一、〇四五
		財産賣却代金	五〇
		繰越金	二、〇〇〇
		雜收入	三、一五二
		委託料	九五〇
		町稅	二六、四一一
		繰入金	二、二六九
		國庫補給金	一、三〇四
		歲入合計	一七〇、三三六

歲		費
神社費		四五九
會議費		七五五
役場費		三四、八二八
土木費		一、六六三

尋常高等小學校費	三八、九六六
南尋常小學校費	一八、六五四
青年學校費	二、〇四六
幼稚園費	二、一九八
圖書館費	二、六三一
學事會費	一、〇〇五
傳染病豫防費	一、九三四
傳染病院費	三、二七五
汚物掃除費	二、六二五
居場費	一、九〇一
代用花柳病診療費	六〇〇
勸業費	一、六三九
授産所費	六〇五
公園費	一、〇六八
地方改良費	五、四一〇
社會事業費	二、三〇五
警防費	六、六三〇
基本財産造成費	八、九八九
財産費	一、八五〇
諸税	二〇〇
公金取扱費	三六七
雜支出	一、六二四
豫備費	一、〇〇〇
經常部計	一四五、一三九
土木費	四五〇
小學校費	一、二八五
寄附金	五三
補助費	二、八三〇

算	出	財産費	三〇
		都市計劃及事業調査費	八〇〇
		基本財産補塡費	一七、一五一
		公園管理費	一、六四三
		選擧費	二
		事變費	九六五
		臨時部計	二五、一九七
		歲出合計	一七〇、三三六
特別會計	歲入	事業收入金	五五、〇六六
		縣奬勵金	九五
		繰越金	一〇〇
		歲入合計	五七、二六一
公益質屋費	歲出	公益質屋費	一、三一八
		貸付金	三三、四三四
		法定交付金	五〇
		繕修費	三〇
		雜出費	一〇
		豫備費	一五〇
		經常部合計	三四、九九二
		財産戻入金	二、二六九
		臨時部合計	二、三六九
		歲出合計	三七、二六一

資	種類	金額
資	町基本財産	七八、九四七
	小學校基本財産	四四、六七〇
	罹災救助資金	二、一六二
	救濟資金	二五四

政

產

產	
消防組基金	一、六七九
獎學資金	一、九三二
小學校兒童健康獎勵基金	一、五九九
社會教育施設指定寄附金	一〇、一七五
計	一四九、四三一

議員及町村政

議員

區別	議員數	有權者數
衆議院議員	一	三、三八二
縣會議員	一	三、二一三
町會議員	二四	三、二一三

委員

區別	人員	區別	人員
土木委員	七	傳染病豫防委員	二
公園委員	九	區長	二三
學務委員	八	區長代理者	二三
社會教育委員	二〇	都市計畫地方委員	二
農林省商工省統計調査委員	七	商業奉仕委員	六

町村吏員

町長	一	掃除巡視	一
助役	一	雇	五
收入役	一	公益質屋業務員	三
主事	一	圖書館職員	三
書記	一四	授產所業務員	一
技手	二	給仕	三
書記補	四	役場使丁	二

文書

收受		發送	
一九、〇〇八		二九、四九六	
計	四八、五〇四		

欠

MISSING

學校

高等科授業料一ヶ月　金四拾錢

南尋常小學校

學級	教員	在籍兒童 男	女	計
一七	一九	四六七	四五〇	九一七

學校衛生職員　學校醫二　齒科醫二　看護婦一

尋常高等小學校附屬幼稚園

名稱	職員	生徒數 男	女	計
保育料　一ヶ月　金一圓八十錢				
保姆幼兒	三	六五	創立以來保育滿期	一、一二三

青年學校

名稱	職員	生徒數 男	女	計
公立邑樂郡館林町青年學校	一二	一一〇		七一〇
私立館林共立モス青年學校	一三	二八		

館林圖書館

開館新聞縱覽者	圖書閲覽 男	子	女	子	計	一日平均入館者
二九七一七八一七	九、五五三	一、四六〇	二、〇一三	二八、八三〇	九九〇八

諸學校

名稱	教員數	學級數	生徒數
縣立館林中學校	一七	九	四七一
〃館林高等女學校	一六	八	四一二
私立館林高等家政女學校	一四	五	一九五

衛

醫師	齒科醫	藥劑師	産婆	看護婦	獸醫師
二〇	一二	八	二一	一二	一

衛生組合

組合長	副組合長	委員
二三	二三	一五〇

傳染病

種別	發生	全治	死亡
赤痢	三	三	一
腸チフス	五	二	一
猩紅熱	一	一	一
疫痢	二	一	一

生産

農産物

種別	作付反別	收穫高	價額
甘藷	七段	二、一九一貫	二二六円
生大根	八	四、八〇〇	三三六
人蔘	二	六〇〇	一五〇
里芋	七	二、二四〇	四九三
牛蒡	三	九〇〇	二二五
蓮根	三四	五、一〇〇	五、一〇〇
葱	五	二、〇〇〇	二四〇
馬鈴薯	一、九	八、三二四	七四九
茶	三四	四三六	一、七一四
漬菜	六	三、六〇〇	三九六
胡瓜	一	五〇〇	五〇
南瓜	二、〇	八〇〇	五六
西瓜	二	一、二〇〇	二〇四
茄子	四	一、九八〇	二九七
計	一四七、二	三〇、三五八	六、〇三三

蚕

桑葉

區別	收葉段別	數量	價格
春蚕	四〇	九、八六五貫	一、三八一円
夏秋蚕	三九	七、九九〇	九五八
計	七九	一七、八五五	二、三三九

桑畑

區別	刈桑立木	養蚕戶數	掃立數量
春蠶專用	一	一	一
夏秋蠶專用	一	一	一
春夏秋蠶兼用	五二	五二	二
計	五二	二	一
春蠶	一五	一五	六五八瓦
夏秋蠶	二一	二一	五三〇
計	三六	一、四七五	

生産

農産物

種別	作付反別	收穫高	價額
水稻	三四二反	六八一	二二、九五九円
陸稻	一六四	一八一	五、五九一
大麥	一六六	三四九	四、七一二
小麥	一三五	二四三	五、八三二
大豆	一〇	一〇	一七〇
小豆	三	二	四二
計	八〇〇	一、五六七	三七、九六六

園藝

種別	樹數	收穫高	價額
梅	八二八本	一二石	二四〇円
桃	三五〇	一、〇五〇貫	三二八
柿	六〇五	五五五	二〇〇
葡萄	二〇	六〇	一五
ビワ	二〇八	六〇五	二二四
計	一、七九七	三、五三六	一、三九九

生

火葬埋葬

年次	總數	火葬	埋葬	死胎分娩
昭和十三年	二九五	一一七	一七八	二〇
〃十二年	二八四	八一	二〇三	二四

汚物掃除

塵芥搬出車數	同上人夫數		
手車	七、三五六	掃除人夫	六
馬車	四一五	火夫	二
火夫延人員	掃除人夫延人員	塵芥搬出量	共同便所
五一四	一、九一二	四九六、三一五	五

町營屠場

牛	四七	一〇	三
馬	一〇	三	四
羊	三	四	三、九八七
犢	四	三	四、一八五
羊	一	一	一
計	五	二	一

業

区別	收穫高	價額
春蠶	四六七貫	一、九〇〇円
夏秋蠶	三一二	一、五〇〇
計	七七九	三、四〇〇

水産業

区別	漁船	漁獲高	價額
水産業者 本業	一	一八	一八
水産業者 副業			
水産業者 計	一	一八	一八

区別	漁獲高	價額
鯉	三〇〇貫	七五〇円
鰻	一〇〇	五〇〇
ワカサギ	一五〇	四五〇
其他	五、〇〇〇	七、五〇〇
計	五、五五〇	九、二〇〇

織物業

区別	職工 男	職工 女	職工 計	品別	反数	金額
機業戸数 十台未満	四八	二二	三	絹織物	三五、六八七	二〇五、四八九円
機業戸数 十台以上五十台未満	四四	一九七	六八〇	人絹織物	四五、九二四	九〇、一七五
機業戸数 計	九二	二一二	九二一	絹人絹交織物	二三、三六八	一〇九、六三
手機機	六六	一	六六	組合工業	三、三四二	一一、二七四
手機機				生産ス●フ織物	七、四五七	二五、五一四
手機機				絹綿交織物	九三五	二、二二〇
手機機				人絹綿交織物	一八、三三〇	三七、七四〇
手機機				綿織一物	一、六四六、六二六	三、五五〇、二六九
手機機				毛織物		

郵便

区別	郵便局数	郵便局数	郵便局数	郵便局数	郵便局数	郵便局数	郵便局数	郵便局数	郵便局数	郵便局数	郵便局数	郵便局数
区別	郵便局 総数	郵便局 三等局 集配	郵便局 三等局 無集配	郵便局 電信取扱局	郵便局 電話交換取扱局	郵便局 公衆電話	郵便局 郵便切手及収入印紙賣捌所	郵便函	郵便函	郵便函	郵便函	郵便函
郵便物 総数	二	一	二	一	一	三	一	一	三	二	一	一
郵便物 区別 通常郵便物 引受一配達	二、七八八、八〇四	一、六八六、四四六八	三三、一九〇	八、一九四	九三三	三三、七七九	三三、七六九	九	一五、五八二	一五、五八〇	一八、一九九	二
郵便物 区別 小包郵便物 引受一配達	二、八〇七、八八二	二、七六七、九三六	二九、六七七	九、一二三	三五六	三三、五六五	一、八〇四	二	一八、七六二	一八、一九九	二、一二〇	一
郵便物 総数	一九、九三七	二一、四六六	八、二四三	二一九	一〇	一七、八〇四	二、二九、四六三	一三、二六	一、一〇六	一三		
郵便物 普通郵便	二四、七六六	一九、八八四	五、二七一	三一一	一							
郵便物 書留〃												
郵便物 速達〃												
郵便物 航空〃												

電信

年次	総数	内国	外国
昭和十三年	三三、七七九	三三、七六九	九
昭和十二年度	三六、三五五	一七、八〇四	二

電話

年度	加入者数	交換度数 総数	交換度数 区内	交換度数 区外	一日平均度数	加入者一日平均通話
昭和十三年	四七四	三、三八、九四〇	三、〇九九、四七八	二二九、四六三	六、一〇六	一三

郵便爲替

年次	振出 口數	振出 金額	拂渡高 口數	拂渡高 金額
昭和十三年	二三、五二三	三二、五九八	一七、八三四	三一〇、七〇二
昭和十二年	二一、六五七	三一、五八八	一四、三一八	一九、一六〇
昭和十一年	二一、七七六	二七〇、〇六三	一四、二一〇	一九七、二七一

郵便貯金

年次	預金高	預入人員	預入平均
昭和十三年	九六六、〇五八円	八三、三〇三人	一一円
昭和十二年	六三〇、二三五	四一、四三三	一〇
昭和十一年	六一九、三〇〇	四〇、九八七	一五

郵便貯金及郵便金拂入戻

年次	預入 口數	預入 金額	拂戻 口數	拂戻 金額
昭和十三年	八三、三〇三	九六六、〇五八円	一七、三四四	七二〇、〇三三円

信

種別	件數	保險金額
簡易保險 昭和十三年度末契約受持	二、五三件	二、〇〇五、一八一圓
昭和十三年度中新規契約	二、〇〇三	四七、二八九
昭和十三年度保險金支拂	三七	二、六六二

郵便年金 種別	件數	年金額
昭和十三年度末契約受持	四五	四、一五八
昭和十三年度中新規契約	一六	三、三四四
昭和十三年度中年金支拂	一九	八八四

ラヂオ加入者	年次	聽取人數	聽取加入者數 內無料
昭和十三年度	一、六四八	一一二	
昭和十二年度	一、三六五	六〇	

官公署

名稱	位置	組合員數	出資口數
館林職業紹介所	竪町		
館林町公益質舗	籍町		
館林屋	同		
館林町授産所	竪町		
町營館林屠場	下町		
館林塵芥燒却場	廣濟町		
館林町圖書館	谷越町		
館林稅務署	塚場町		
館林警察署	谷越町		
館林土木出張所	籍町		
新田區裁判所館林出張所	台宿町		
群馬縣農產物檢査所館林支所	大名小路		
群馬縣蠶業取締所館林支所	大名小路		
宇都宮地方專賣局館林煙草販賣所	谷越町		
館林郵便局	足利町		
谷越郵便局	下町		
邑樂郡農會	本紺屋町		
館林織物工業組合	同		
群馬縣館林機業補導所	同		

產業組合

名稱	位置	組合員數	出資口數
保證責任館林販賣購買利用組合	竪町	三、五二八	五八四
有限責任館林醫療購買利用組合	竪町		
有限責任館林榮養食同共購買組合	下町	一、一六七	一、七五四
有限責任館林信用組合	竪町	一、四〇七	六、八四〇

同業組合

名稱	位置	組合員數
群馬縣東部酒造組合	谷越町	二〇
東毛酒類商同業組合	同	七九〇

銀行

名稱	所在地
株式會社第一銀行館林支店	谷越町
株式會社足利銀行館林支店	同
株式會社群馬大同銀行館林支店	同

主ナル會社

名稱	位置
紐育スタンダード石油會社館林油槽所	下町
館林航器株式會社	同
株式會社麻屋商店	谷越町
館林鹽元賣捌合資會社	同
合同運送株式會社館林工場	同
日清製粉株式會社館林工場	同
館林倉庫株式會社	同
東京電燈株式會社前橋支店館林出張所	同
株式會社小室商店	同
株式會社小川組館林出張所	同
關東製氷株式會社館林工場	新紺屋町
株式會社三越館林出張所	同
株式會社川久商店館林出張所	同
正田醬油株式會社	材木町
株式會社下城商店館林出張所	目車町
株式會社伊勢崎書上商店館林出張所	同
群馬無盡株式會社館林出張所	籍町
株式會社金井商店館林出張所	竪町
株式會社羽尾商店館林出張所	石宿町
上岡毛織物合資會社	同
株式會社館林キネマ	鍛冶町
館林織布株式會社	同
共立モスリン株式會社館林工場	同
合資會社泉和屋商店	十七區
株式會社東毛新聞社	同
株式會社丸上工場	代官町

各種團体

名稱	會員數
納税組合（一四）	三、七三八
衛生組合（二三）	三、六七四
館林町警防團	三〇〇
帝國在郷軍人會館林町分會	四六八
館林町青年團	三〇二
館林町農會	二〇〇
館林商工會	六〇四
館林織物工業組合	二四〇
館林町銃後奉公會	一三〇
館林町女子青年團	三、七六九
館林婦人會	九〇
大日本國防婦人會館林町分會	二七〇
館林町産業振興會	一、八〇五
館林町實業談話會	六一
館林町醫師茶話會	一〇〇
邑樂郡齒科醫會	一五
方面事業館林町助成會	三一一
館林佛教積善會	七
邑樂郡農會	二二ヶ町村農會
邑樂郡養蠶業組合	一二三實行組合
邑樂郡畜産組合	四、二〇〇
館林養豚組合	六七組合
館林養蠶實行組合	一七
館林農事實行組合	一
館林養兎組合	一四五組合

新聞

名稱	刊行日	位置	創刊年月日
東毛新聞	日刊	金山	大正十二年十二月六日

接客業其ノ他

名稱	專業	兼業	其他	甲種	乙種	男	女
旅館	五	九	三	二九	六	一九	八
遊戯場	玉突					一	
料理店						三〇	
飲食店							
貸席業							
理髮業							
浴場業							
藝置屋	大藝妓	小藝妓	酌婦	給仕婦	遊藝師匠	遊藝人	
三九	七三	一六	一〇	女中 二九 女給 三三	四	四	

劇場 一　活動常設館 一

鐵道

驛名	驛間粁程	自館林驛粁程
	キロ分	キロ分
浅草雷門	—	74.6
隅田公園	0.5	74.1
業平橋	0.6	73.5
曳舟	1.2	72.3
玉ノ井	0.9	71.4
鐘ヶ淵	1.0	70.4
堀切	1.1	69.3
北千住	1.7	67.6
小菅	1.2	66.4
五反野	1.0	65.4
梅島	1.3	64.1
西新井	0.8	63.3
竹ヶ谷	13.0	50.3
椿堀	11.0	39.3
杉戸	5.7	33.6
久喜	6.7	26.9
加須	10.7	16.2
羽生	7.8	8.4
川俣	4.3	4.1
茂林寺前	1.9	2.2
館林	2.2	—
多々良	4.0	4.0
福井	5.3	9.3
足利市	2.9	12.2
大田	7.8	20.1
木崎	6.5	26.6
世良田	2.8	29.4
境町	2.3	31.7
伊勢崎	8.1	39.8

鐵道

驛名	驛間粁程	自館林驛粁程
伊勢崎	—	—
駒形	5.8	43.6
前橋	7.0	52.6
新前橋	2.5	55.1
高崎	7.3	62.4
館林	—	—
渡瀬	4.2	4.2
佐野町	4.8	9.0
佐野	2.5	11.5
田沼	6.2	17.7
葛生	4.4	22.1
館林	—	—
目撫	0.3	0.3
成島	1.6	1.9
木中野	4.2	6.1
森	2.1	8.2
小泉町	2.5	10.7
太田	—	20.1
三枚橋	3.4	23.5
治部門橋	2.3	26.0
藪塚	3.8	29.8
新桐生	4.9	34.7
相老	2.2	37.0
新大間々	3.4	40.4

館林町近郊概要

館林町は群馬縣邑樂郡の中央に位し德川時代に關東の名城と謠はれた尾曳城の城下町である

慶長以來藩主の交替するもの十有六中に傑出するもの榊原康政德川綱吉等あり幕末より廢藩當時にかけては秋元但馬守の居城なりし世の人館林といへば直に分福茶釜を想ひ起さるるであらう更に又花山つゝじが浮ぶに相違ないけれど亦織物及醬油の產地として商業に工業に活氣滿々たる都市たる事は人のよく知る所である

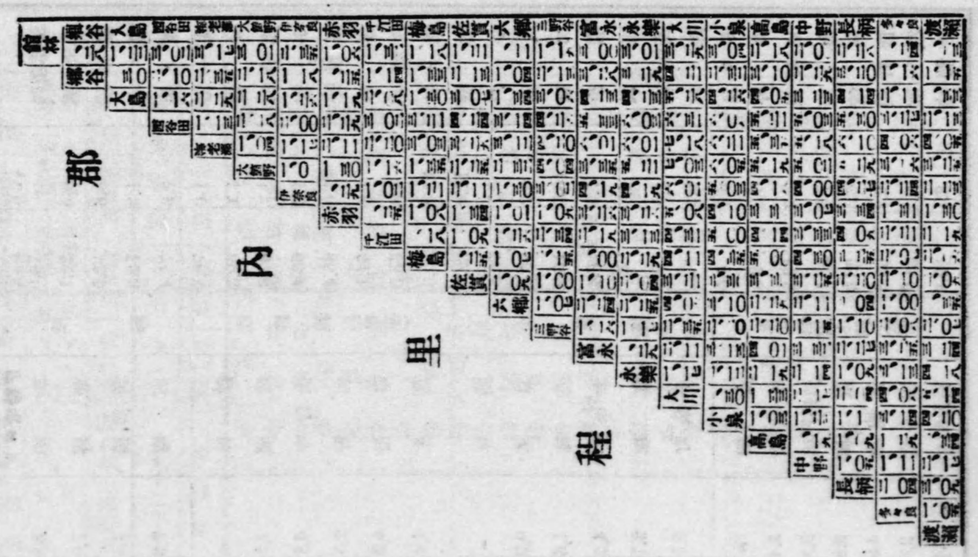
要するに館林は觀光遊覽地たると共に地方產業の中心地である

東武鐵道は東京淺草驛より來り本町を經て伊勢崎町に到るを本線とし更に分岐して栃木縣葛生町に至る佐野線あり又西方小泉町に通ずる小泉線あり

定期乘合自動車には館林驛を中心として左の八線を數へ交通至便である

1 栃木縣藤岡を經て栃木町　2 板倉を經て茨城縣古河町　3 埼玉縣羽生町を經て行田町　4 小泉町を經て伊勢崎町　5 其他太田町　6 高島　7 赤岩　8 栃木縣佐野町等に至る

本町は南に利根川北に渡良瀨川を控へ交通上聊か利便を缺くの感ありしも利根川に在りては曩年昭和橋を架し（現在は洪水の爲め一部破壞せられて復舊せず）渡良瀨川に在りては昭和九年渡良瀨大橋の架橋成りてより交通頓に繁劇を加へ町內主要巷線には舗裝工事を施し今や絡繹として纖ろが如き盛況を呈しつゝある左に里程の一二を紹介す



館林甚句

(1)
ハアー どれに白羽の
どれに白羽の矢を館林ヨ
花のつゝじのヨーイ ヨイヤサノ
いろもやう ヨイショ〳〵

(2)
ハアー ほかの花には
ほかの花にはない色までヨ
揃ふつゝじのヨーイ ヨイヤサノ
花のかず ヨイショ〳〵

(3)
ハアー 照る日曇る日
照る日曇る日花山つゝじヨ
心ごゝろのヨーイ ヨイヤサノ
いろに咲く ヨイショ〳〵

(4)
ハアー いろに映せば
いろに映せば思ひももゆるヨ
花のつゝじのヨーイ ヨイヤサノ
べに鹿の子 ヨイショ〳〵

(5)
ハアー あれさあぶない
あれさあぶない蝶々の羽そでヨ
もゆる火のようなヨーイ ヨイヤサノ
べにつゝじ ヨイショ〳〵

(6)
ハアー もゆる思ひも
もゆる思ひもつゝじが間にヨ
いつか浮名をヨーイ ヨイヤサノ
館林 ヨイショ〳〵

(7)
ハアー おぼろ月夜に
おぼろ月夜に昔を忍ぶヨ
櫻ふぶきのヨーイ ヨイヤサノ
三の丸 ヨイショ〳〵

(8)
ハアー 月の城沼
月の城沼よしあし分けてヨ
二人うれしいやヨーイ ヨイヤサノ
舟すゞみ ヨイショ〳〵

(9)
ハアー 城は稲荷の
城は稲荷の尾曳で出來てヨ
わしの根引きはヨーイ ヨイヤサノ
たれがする ヨイショ〳〵

(10)
ハアー あの娘かはいや
あの娘かはいや振袖姿ヨ
今日も稲荷のヨーイ ヨイヤサノ
鈴を振る ヨイショ〳〵

(11)
ハアー 様の情と
様の情と分福茶釜ヨ
いくら汲んでもヨーイ ヨイヤサノ
汲み切れぬ ヨイショ〳〵

(12)
ハアー 意地の立糸
意地の立糸やさしく受けてヨ
横に絣のヨーイ ヨイヤサノ
色合せ ヨイショ〳〵

(13)
ハアー 上州はた場に
上州はた場に名も館林ヨ
模様銘仙ヨーイ ヨイヤサノ
かすり織り ヨイショ〳〵

(14)
ハアー 言へぬ思ひの
言へぬ思ひの血をはくまでもヨ
利生たまへやヨーイ ヨイヤサノ
不動様 ヨイショ〳〵

館林花山小唄

1 夢と過ぎたる六萬石は
町へ名殘の置土産
ヨイ〳〵ヨイトコ館林

2 お國自慢は躑躅の名所
手に手曳かれて花山へ
ヨイ〳〵ヨイトコ館林

3 昔なからの分福茶釜
今は電車で樂な道
ヨイ〳〵ヨイトコ館林

4 二つの心が一つになれば
花にうかれて三の丸
ヨイ〳〵ヨイトコ館林

5 利根の流れに育ちし鯉は
持つて生れた意地がある
ヨイ〳〵ヨイトコ館林

6 永くつづいた尾曳の城に
殘る稲荷の守り神
ヨイ〳〵ヨイトコ館林

7 君も今宵は渡良瀬川の
深い情は底にある
ヨイ〳〵ヨイトコ館林

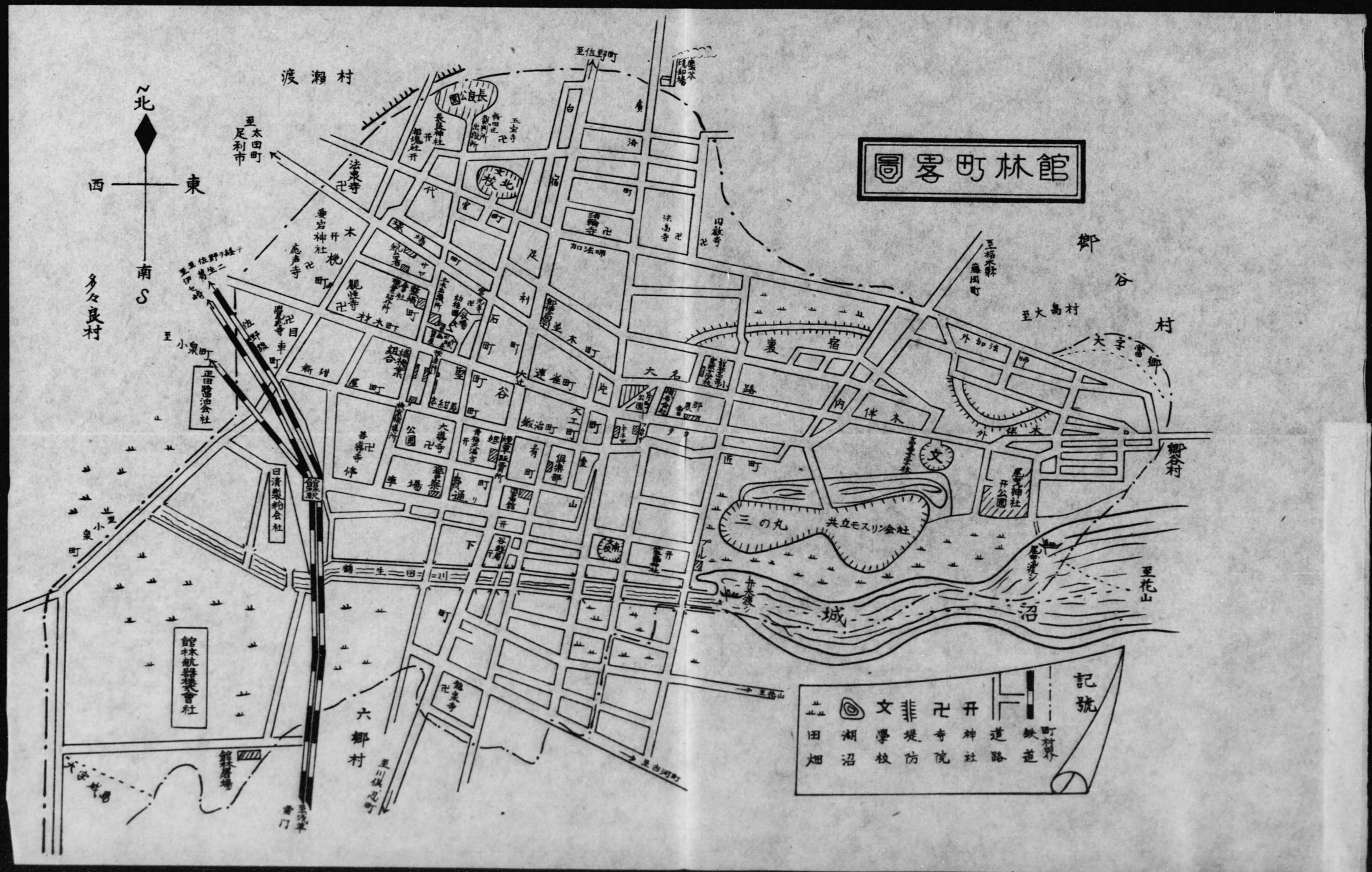
昭和十五年四月廿五日 印刷
昭和十五年五月十五日 發行

館林町役場

印刷人 富永儀一
群馬縣館林町一八四一番地

印刷所 富永印刷所
群馬縣館林町一八四一番地

館林町畧圖


北
西
東
南 S
渡瀬村
多々良村
郷谷村
六郷村
至太田町 足利市
至佐野町
至小泉町
至花山
至館林駅
至川俣忍町
至古河町
至福島縣 藤岡町
至大島村
長良公園
長良神社
法泉寺
愛宕神社
慈眼寺
觀性寺
覺善寺
善導寺
大導寺
日清製粉会社
館林航歸機製造會社
館林屠場
館林駅
足利
加法師
裏宿
大名
外加法師
外佐野
三の丸
共立モスリン会社
城沼
文
記號
田畑
湖沼
文學校
堤防
寺院
神社
道路
鉄道
町村界

398
439